

■本號口繪はワットマン四ツ切のスタデーにして、日本水彩畫會研究所七月例會に一
等賞を得たる夏目氏の作に御座候

□讀者諸君は此暑中休暇に定めて各地に寫
生旅行を試みられし事と存候、就ては本誌
によりて廣く興味を頌たれては如何スケツ
チも紀行文も共に編者の歡び迎ふる處に候

編者より

◎住田氏へ『月光』は面白しいづれ中繪と
して本誌に光彩を添へ可申候、『花市』市と
いふ感なし、人物が主となれり、花畑とて
もせば可ならん、右の手が大きい過ぎるやうな
り、惣じて色彩強烈にして優しき花と調和
せず。『漁村の夕』夕として空の明るさが足
りぬ、是は屋根が明るきためなり、前景の
稲田はチト、ウルサキやうなり◎心配生へ
『帽子』は鉛筆が硬過る、爲めに、蔭の暗い
感じが見えぬ、形の方からいふても、帽の
庇が少し長過はせずや。◎平野君へ あま
り粗末で採用しかれます。◎桐野君へ 温
泉場のエハガキ難有御禮申上ます。

問に答ふ

■水彩畫原色版は其原畫の色と同じにや、
また臨本としてもよろしきや(岡崎一讀者)
◎赤が常に勝つやうなれど時として原畫に
等しき色調を出すことあり、『みづゑ』四
十の富士山の如きはよき方にて臨本とな
しても差支なし■私は『靜物寫生の話』に
よつて鉛筆畫を試みましたが繪が早く出來
過て困ります如何したものですか(心配
生)◎注意が届かぬからです、帽子一個を
畫くにも輪廓の時充分注意して、割合やら
比例などをよく實物を見比べ、實線を引く
時も同様にして、蔭をつけるにも其濃淡を
比較研究して叮嚀に寫生する時は随分長時
間を要します、併し早くして上手に出來
れば結構です■神田文房堂の天下先生選水
彩畫具一揃組物とは如何(心配生)◎差當
り寫生に用入の道具類を集めたもの、但代
價は同店の目録よりは只今は安くなつてゐ
る筈■一 春鳥會々員とは如何■二 地方講
習生とは『みづゑ』二十七號にあるものに
や■三 通學者と地方講習生と進歩に於て差
異なきや■四 地方講習生は鉛筆より始めて

よきや且一ヶ月に何枚送添削を受くること
を得るや■五 溶解ラツクの使用法及賣捌所
(KT生)◎一 『みづゑ』第三十一に日本水
彩畫會々友規定あり、春鳥會々員といふも
のなし■二 同じものなり■三 勉強の程度に
よれど通學せざれば満足なる進歩なからん
■四 よし、添削の繪の數に制限なし■五 神
田文房堂にあり、鉛筆又は木炭畫の摩擦し
て消ゆるを止むるため霧吹にて畫面若くは
畫面の裏を濕ぼす

讀者の領分

■一 靜物寫生の話は休みなしに願ひます
■二 口繪に靜物畫を出されたし■三 色彩應
用論は完結せしにや■四 九月頃臨時増刊を
出して夏期講習會の講話を滿載されたし■五
『みづゑ』は紙と云ひ活字と云ひ天下無比永
久に變更なきを希望す■六 定價の幾分を増
しても今少々紙數を増されたし(間接讀者
惣代)◎出來るだけ御希望に應ずるやう努
力します■文房堂製の二枚折パレット新
規無疵賣りたし(茨城縣結城郡菅原村、坂野
富五郎)